東京外国語大学基金

Foundation of Tokyo University of Foreign Studies

ACTIVITY REPORT



活動報告 2025

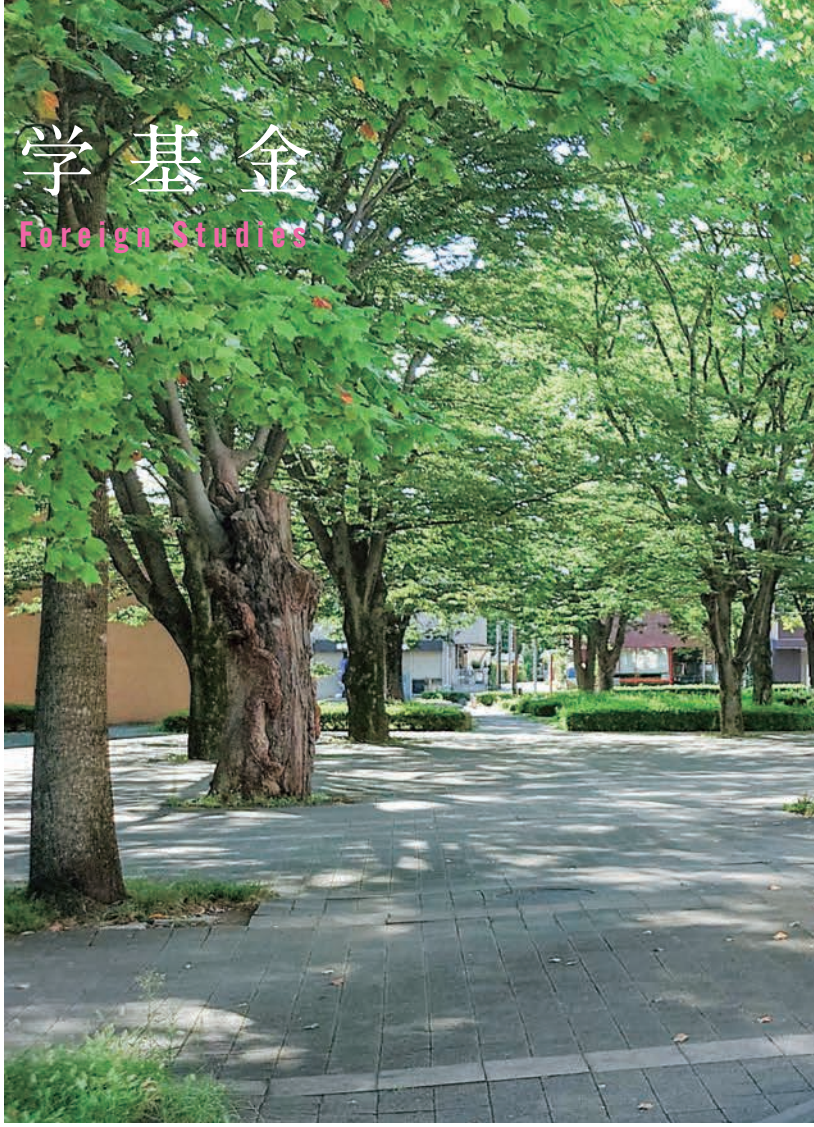
東京外国語大学基金

Foundation of Tokyo University of Foreign Studies

活動報告

ACTIVITY REPORT

2025



ご挨拶　春名学長 …… 02
江利川理事 …… 03
2025年度 収支報告 …… 04
2025年度 活動報告 …… 05
コラム いま、留学に何が起きている? …… 10
コラム サークル活動を支える空間づくり …… 11
修学支援事業基金へのご寄附のご案内 …… 12
ご寄附いただいた方々 …… 13
2026年度 支援事業計画 …… 14
東京外国語大学基金 …… 15

ご挨拶



東京外国語大学長

春名 展生

……はるな のぶお

つなぐ、つむぐ、はぐくむ

東京外国語大学基金への支援で世界と日本の未来をひらく――

皆さまに賜りました厚いご支援に心より御礼申し上げます。

今後、人口が縮みゆく日本社会は、ますます海外の市場と労働力に頼っていくでしょう。そのため、外交の場でも、通商の場でも、相手の国・地域の言語を操り、相手の心に訴えかけられるコミュニケーション能力を備えた人材は、ますます必要になってくると考えられます。東京外国語大学は、国立大学法人として、このような社会の要請に長期的にこたえていく役割を担っています。

しかし他方で、急速に性能を高めつつあるAIの広範な普及を前にして、長い年月と多額の費用をかけて外国語を習得する意義を訝る風潮が、日本社会に広がりつつあります。経済基盤の再構築と成長軌道の確保に注力する政府のほうも、少なくとも現時点では、高等教育政策のなかで東京外国語大学の教育と研究に高い優先順位を与えられる状況にはありません。

社会全体からの厚い支援を期待しにくい時代にあって、東京外国語大学の長期的な使命に共鳴してくださる皆さんのご支援は、学生が安心して学ぶ環境の整備と教育研究の高度化を助けているだけでなく、学生および教職員にとって大きな励みになっています。

引き続き、皆さまからのご厚情をいただけますようお願い申し上げます。





東京外国語大学理事
（社会連携・基金等担当）

江利川 宗光

……えりかわ むねみつ

日頃より、東京外国語大学基金を通じた多大なるご支援・ご協力を賜り、心より御礼申し上げます。皆さまからお寄せいただいたご厚志は、今年度も「サークル棟空調整備プロジェクト」をはじめとして、学生や大学関係者が快適で有意義なキャンパス生活を過ごせるよう多くの施設整備、活動充実等に充当させていただいております。

大学を取り巻く環境が激変する今日、本学のみならず全ての日本の大学がその存在意義を自ら改めて実証し、自立自興の精神で大学運営を行っていくことを求められています。本学基金委員会としても、2026年度からの中期基金運営方針を策定し、これまで以上に資金運用の強化や支援者の皆さまとの長期にわたる関係構築等、戦略的な基金運営強化に努めてまいります。

生成AIが急速な進化発展を遂げる現在・未来においても、個々人の優れた言語コミュニケーション力やグローバル、多文化共生といった視座が果たす役割はますます重要となっていきます。将来にわたり、国内外で活躍する人材を輩出する個性豊かな大学としての地位をゆるぎないものにするためにも、引き続き、皆さまの物心両面にわたるご支援をよろしくお願い申し上げます。

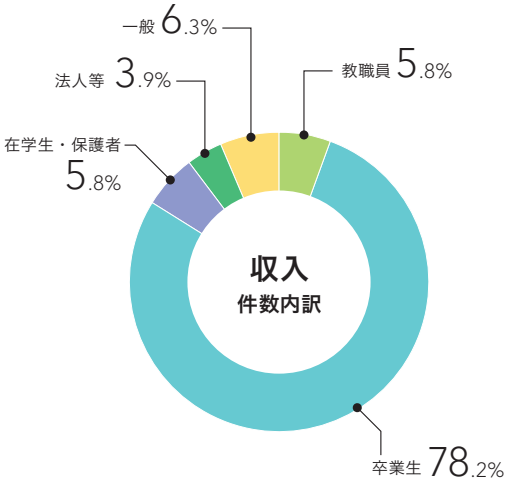
2025 収支報告

2025年度 収支決算

2025年度 期首残高	収入額	運用利息	支出額	2026年度 繰越（円）
538,839,804	31,579,910	1,701,618	35,944,661	536,176,671

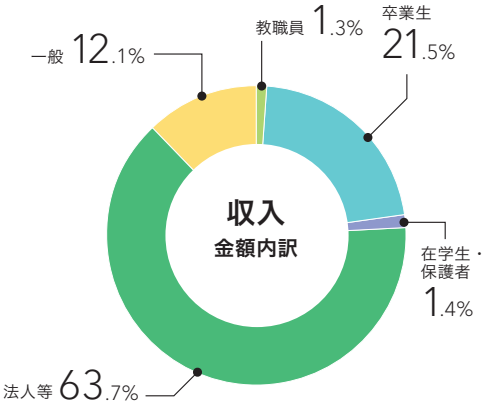
収入

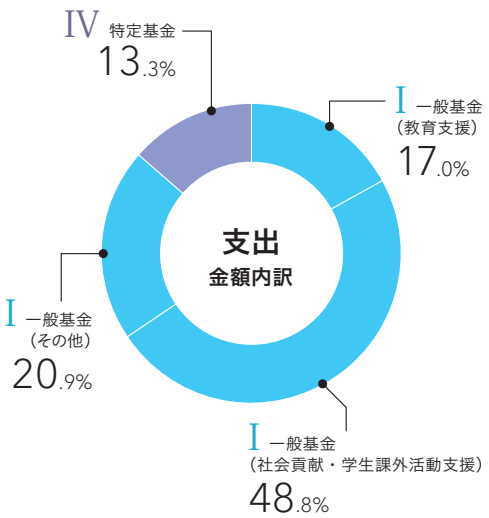
区分	件数	金額（円）
教職員	12	419,300
卒業生	161	6,783,037
在学生・保護者	12	452,500
法人等	8	20,121,337
一般	13	3,803,736
合計	**206**	**31,579,910**



支出

区分 主な使途				金額（円）
Ⅰ	一般基金	教育支援 各種奨学金、国際シンポジウム大学院生派遣旅費　等		6,099,718
		社会貢献・学生課外活動支援 課外英語学習・課外活動・進路指導支援・サークル棟空調整備プロジェクト推進　等		17,535,649
		その他 100円朝食・フードバントリー　等		7,506,980
Ⅱ	修学支援事業基金			0
Ⅲ	研究等支援事業基金			0
Ⅳ	特定基金	1.人工芝基金	0	4,802,314
		2.植栽基金 ウエストガーデン北側のカンザン植栽新設工事　等	1,398,678	
		3.附属図書館支援基金 学生図書購入、イベント開催	1,246,926	
		4.現代アフリカ教育研究支援基金 ザンビア大学からの受入れ学生旅費支援　等	1,079,260	
		5.ベトナム関連教育支援基金 ベトナム関連イベント参加のための旅費支援　等	243,420	
		6.ペルシア語教育研究支援基金 ペルシア語研究室管理業務費、図書購入　等	834,030	
		7.ロシア語教育研究支援基金	0	
		8.端艇部支援基金	0	
合計				**35,944,661**





Ⅱ：修学支援事業基金……一般基金（教育支援）により各種奨学金の給付等を行ったため、2025年度は執行がありませんでした。

Ⅲ：研究等支援事業基金……一般基金（研究支援）により支援したため、2025年度は執行がありませんでした。

Ⅳ：特定基金「1.人工芝基金」「7.ロシア語教育研究支援基金」「8.端艇部支援基金」……執行はありませんでした。

2025

活動報告

2025年度における基金の具体的な使途（活動）について、次のとおり報告いたします。

I 一般基金



- サークル棟などの課外活動施設空調整備のための施設設計費用に充てました。
➡ 詳しくはp.11へ
- グラウンドで課外活動を行う学生の熱中症対策対策として移動式シェルターの購入経費に充てました。
- 「食」の支援として100円朝食、フードパントリーで提供する食品購入の経費に充てました。
- 学生（日本人学生・留学生）に対する留学支援として、国連スタディツアーや受入れ（奨学金の支給）に関する経費に充てました。
➡ 詳しくはp.07へ
- 研究に必要なフィールドリサーチを奨励する目的で、Peace and Conflict Studies（PCS）コースの学生2名に対して奨学金を支給しました。
- アジア経済研究所によるイデアス（IDEAS）研修プログラムへの本学大学院生2名の派遣にあたり、研修費の一部を基金から支援しました。
- シェイク・アンタ・ジョップ大学（セネガル）で開催された第15回アジア・アフリカ研究・教育コンソーシアム（CAAS）国際シンポジウムに参加した大学院生３名に対して渡航費の補助をしました。
➡ 詳しくはp.06へ
- 群馬県太田市との連携協定の一環として、12月6日にポルトガル語専攻の2年生が、太田市学習文化センターにおいて、外語祭で上演したポルトガル語の喜劇「ウ・ジレタンチ（O diletante）」（マルチンス・ペーナ作）の公演を実施するための支援を行いました。
- 英語学習支援センターのプログラムの1つである「ライティング・サポートデスク」のアドバイザー謝金に使わせていただきました。
- 毎年11月に5日間にわたって開催される外語祭の各国料理店や語劇支援のための費用に使わせていただきました。
- 学生相談室やキャリア相談室などの充実に資する経費に使用しました。



12月のフードパントリーでは、パックご飯や麺類、缶詰などの食料品を約300名の学生へ提供



ブラジルにゆかりのある太田市や大泉町の市民が、日本語字幕とともに楽しんだポルトガル語の喜劇



キャリア相談の様子

アジア・アフリカ研究・教育コンソーシアム（CAAS）国際シンポジウムへ派遣する大学院生を支援

ダカールで交わす対話、新たな知への一歩

基金の支援を受け、セネガル共和国・ダカールで第3回アフリカ・アジア会議フェスティバルと合同開催された第15回アジア・アフリカ研究・教育コンソーシアム（CAAS）国際シンポジウムに参加した本学の大学院生。在日フィリピン人移民の食文化に関する研究を発表し、各国の研究者との対話を通じて研究を深め、国境を越えたつながりを築きました。

サウレ・ケヴィン・ブランドンさん
…… Saure Kevin Brandon
東京外国語大学大学院 総合国際学研究科
博士後期課程 3年

Sharing Foodways Research, Connecting with Scholars across Borders

Africa-Asia 3 Conference Festival (Dakar, Senegal)

From June 11 to 14, 2025, I attended the Africa-Asia 3 Conference Festival (CAAS Symposium) at Cheikh Anta Diop University in Dakar, Senegal. On the opening day, I presented “From bagoong to miso: An Exploration of the Transnationalized Palate and Foodways of Filipino Migrants in Japan,” sharing research on how everyday culinary practices shape transnational identity negotiation, which crucially informed my ongoing doctoral dissertation.

The symposium provided a valuable space to connect with fellow PhD students and professors from TUFS, while building promising international networks with researchers from the Free University of Berlin and Leiden University.

I am deeply grateful for the generous support extended by Tokyo University of Foreign Studies through the Office for International Affairs. Grants such as this allow budding scholars to engage with a wider community of thinkers beyond the university, enabling us to learn new ways of thinking and doing, receive critical feedback and guidance, and ultimately coalesce these experiences into improving our craft. Above all, such support empowers students of the social sciences to engage more widely, understand lived realities, and establish meaningful human connections—truly putting the “social” in our social science.



My presentation, “From bagoong to miso: An Exploration of the Transnationalized Palate and Foodways of Filipino Migrants in Japan,” delved into culinary habits as reflections of transnational identity negotiation.

私の発表「バゴオンから味噌まで：日本在住のフィリピン人移民のトランスナショナル化した味覚と食文化の探究」では、越境的なアイデンティティ交渉のあらわれとしての食習慣について深く掘り下げました。

食文化の研究を伝え、国境を越えて研究者とつながる

第3回 アフリカ・アジア会議フェスティバル（セネガル共和国・ダカール）

2025年6月11日から14日にかけて、セネガル共和国ダカールのシェイク・アンタ・ジョップ大学で開催された「第3回 アフリカ・アジア会議フェスティバル（CAASシンポジウム）」に参加いたしました。初日には「バゴオンから味噌まで：日本在住のフィリピン人移民のトランスナショナル化した味覚と食文化の探究」と題して発表を行い、日々の料理の実践がいかにして越境的なアイデンティティの交渉を形作るかについての研究を共有しました。本発表は、現在進めている博士論文にとっても極めて重要な知見をもたらすものとなりました。

このシンポジウムは、本学の博士課程学生や教授陣と交流を深めると同時に、ベルリン自由大学やライデン大学の研究者たちと将来に繋がる国際的なネットワークを築く貴重な場となりました。

国際化拠点室を通じて温かいご支援を賜りました東京外国語大学に、心より深く感謝申し上げます。このような助成金のおかげで、若手研究者は大学の枠を超えたより広い研究者コミュニティと関わることができ、新たな思考や実践の方法を学び、批評的なフィードバックや指導を受け、最終的にそれらの経験を結集して自らの研究を高めることができます。なによりも、こうした支援は社会科学を専攻する学生がより広く社会に関わり、人々の生活実態を理解し、意義ある人間的つながりを築く力となります。これこそが、まさに私たちの社会科学に「社会（social）」の息吹を吹き込むものであると実感しております。



Trying Senegalese cuisine with fellow TUFS PhD students after our presentations.

発表後、本学博士課程の仲間と一緒にセネガル料理を堪能しました。

CAAS：アジア・アフリカ研究をリードする高等教育機関の研究・教育連携を目的に、2007年3月に設立されました。2025年6月に開催された第15回国際シンポジウムのテーマは、「A New Axis of Knowledge（新たな知の軸）」。本学からは研究者・大学院生等10名が登壇しました。

留学支援（派遣）国連スタディツアーを支援

憧れの国連で学んだ、対話と協働の力

基金の支援を受け、国連スタディツアーに参加した利重凛さん。国連職員や本学卒業生、日本政府代表部の職員との対話を通じ、国際社会を支える多様な仕事と、協力を重ねることの大切さに触れました。



利重 凛さん
…… TOSHISHIGE Rin
国際社会学部 東南アジア地域／ビルマ語 3年

Profile
中高生の頃から国連や国際機関に関心を持ち、入学前から国連スタディツアーへの参加を希望。2年次に約1週間のプログラムへ参加した。卒業後は、ビルマ語や東南アジアに関する知識を生かせる仕事を志望している。

現地で実感した、対話を重ねることの意義

中学生や高校生の頃から、国連やユニセフ、ユネスコといった国際機関に憧れがありました。大学のウェブサイトで国連スタディツアーの存在を知り、「入学したら参加したい」と考えていたため、募集を見つけたときは迷わず説明会に参加した上で、応募しました。ツアーでは国連本部を見学し、国連のさまざまな機関で働く職員から、これまでのキャリアや仕事のやりがいについて伺いました。本学卒業生によるパネルディスカッションでは、語学や専門性を生かしながら国際社会に貢献する多様な道があることを知りました。

なかでも印象に残ったのは、日本政府代表部への訪問です。国連の場で日本の立場を示しながら、各国と対話を重ね、合意形成を進めていく仕事について学びました。国際法を担当する若い女性職員が大きな責任を担って働く姿にも刺激を受けました。多くの国が一つの場に集まり、異なる立場を尊重しながら共通の課題に向き合うことの意義を考えさせられました。

基金の支援が開いた、世界を知る機会

ニューヨークへの航空券や滞在費を含むツアーの参加費は、学生にとって決して小さくない負担です。基金から参加費の一部を支援していただいたことで、「それなら参加できるかもしれない」と思えました。費用面の不安が和らいだことは、応募を決める大きな後押しになりました。

また、支援によって、現地での過ごし方にも少し余裕が生まれました。自由時間にはツアーで出会った仲間とニューヨークの街を巡り、ミュージカルや夜景を楽しむこともできました。学生が費用を理由に貴重な機会を諦めず、新たな一歩を踏み出すために、寄附による支援は大きな力になると実感しています。



自由時間には、ツアーで出会った仲間とニューヨークの街を巡りました



各国の代表が議論を重ねる国連総会議場

Ⅳ 特定基金


植栽されたカンザン。


その後のカンザン。春には花が咲きました。

植栽基金
- ウエストガーデン北側のカンザン植栽費用に充てました。

附属図書館支援基金
- 学生による選定図書の購入費用やイベントの実施経費などに充てました。

詳しくは本ページ下段へ

現代アフリカ教育研究支援基金
- ザンビア大学からの受入れ学生などの旅費に使用しました。

ベトナム関連教育支援基金
- ベトナム語専攻学生の語学研修参加費やベトナム関連イベントへの学生ボランティア活動参加の支援に充てました。

詳しくはp.09へ

ペルシア語教育研究支援基金
- ペルシア語関連文書の整理、ペルシア語イベント開催費に充てました。

Report

附属図書館支援基金

選ぶ楽しさ、出会う喜び

皆さまの支援で320冊を購入。
学生が本を選ぶ楽しさや、思いがけない一冊と出会う喜びを届けました。


附属図書館外観


イベント
「学部生選書ツアー」の様子
（紀伊國屋書店の店内）


本との「偶然の出会い」を創出する企画
「本の福袋」実施の様子（図書館内）

附属図書館では、学生の学びを支える場として、時代に即した機能や環境、サービスの充実を目的に「附属図書館支援基金」を設置しています。2025年度は皆さまからの温かいご支援により、本基金を活用して320冊の図書を購入するとともに、図書館の蔵書に学生の視点を取り入れる企画として学生が書店で本を選ぶ「選書ツアー」や、本との「偶然の出会い」を創出する企画として「本の福袋」のイベントを開催することができました。このような企画を実現できましたのもご寄附いただいた皆さまのご支援のおかげです。心より御礼申し上げます。附属図書館は今後も学生の創造的な学びを支える拠点として魅力ある図書館づくりに努めてまいります。引き続きご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

ベトナム関連教育支援基金

支援がひらいた、瀬戸内での実践の場

交通費や滞在費は、学生の活動を左右する大きな要素です。基金の支援によって参加への一歩を踏み出し、瀬戸内の島々でベトナム語を生かす実践的な学びを得ることができました。



島本 笑理さん
…… SHIMAMOTO Emiri
国際社会学部 東南アジア地域／ベトナム語 3年

Profile
大学入学後にベトナム語を学び始め、2年次に瀬戸内国際芸術祭の通訳ボランティアへ参加。2026年秋からハノイへ1年間留学し、ベトナム人技能実習生などをテーマとする研究に取り組む予定。

交流の現場で磨かれたベトナム語

2年次の夏、先生に声をかけていただき、「瀬戸内国際芸術祭2025」ベトナムプロジェクトに通訳ボランティアとして参加しました。アートや伝統工芸、デザイン、食文化を通じて日越交流を深める企画で、会場にはベトナムから来日した約20人の工芸作家が参加。私は作家と日本人来場者の間に入り、作品の説明や販売、ワークショップの案内を担当しました。

初めて見る工芸品も多く、作家から用途や制作背景を聞き取り、自分の言葉で来場者へ伝えることに難しさを感じました。また、ベトナム語は年齢や関係性によって、自分や相手の呼び方が変わります。発音や表現をその場で何度も直していただき、授業で学んだ知識を実際の会話の中で使う、貴重な機会となりました。

普段接するのは、日本語を話せる同世代のベトナム人が中心です。今回は異なる世代の方々にベトナム語で意思を伝え、宿舎でも生活を共にしました。はじめは距離を感じた作家の方々とも、言葉を交わすうちに、一緒に写真を撮ったり、来場者へ声をかけたりする関係に。通訳を通して言葉だけでなく、文化や人をつなぐことの面白さを実感しました。

瀬戸内での経験を次の挑戦へ

今回の参加にあたり、ベトナム語専攻の卒業生の方々などから寄せられた基金を通じて、旅費の支援をいただきました。学生にとって、交通費や滞在費は活動への参加を左右する大きな要素です。支援があったことで、費用を理由に「やらない」と決めるのではなく、挑戦する選択肢を持つことができました。芸術祭の会場や島々を巡り、東京とは異なる地域とベトナムとの関わりを知る機会にもなりました。今後はハノイへ1年間留学し、現地での生活に触れながら、ベトナム人技能実習生についても学びたいと考えています。将来はベトナムで働くことや、ベトナムと関わる仕事に就くことが目標です。今回の経験は、その一歩となりました。


ベトナムの工芸に親しむワークショップ


色彩や柄もさまざまなベトナムの伝統的な帽子「ノンラー」



ノンラーの作家と一緒に記念撮影

COLUMN 1

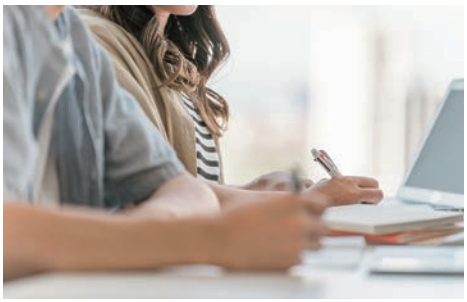
いま、留学に何が起きている？

データでひもとく外大生の留学事情

海外で学ぶ機会を、すべての学生に

2025年度の留学者は1,315名。長期留学がほぼ横ばいで推移する一方、短期留学は減少傾向にあります。数字から、その背景と支援の必要性を考えます。





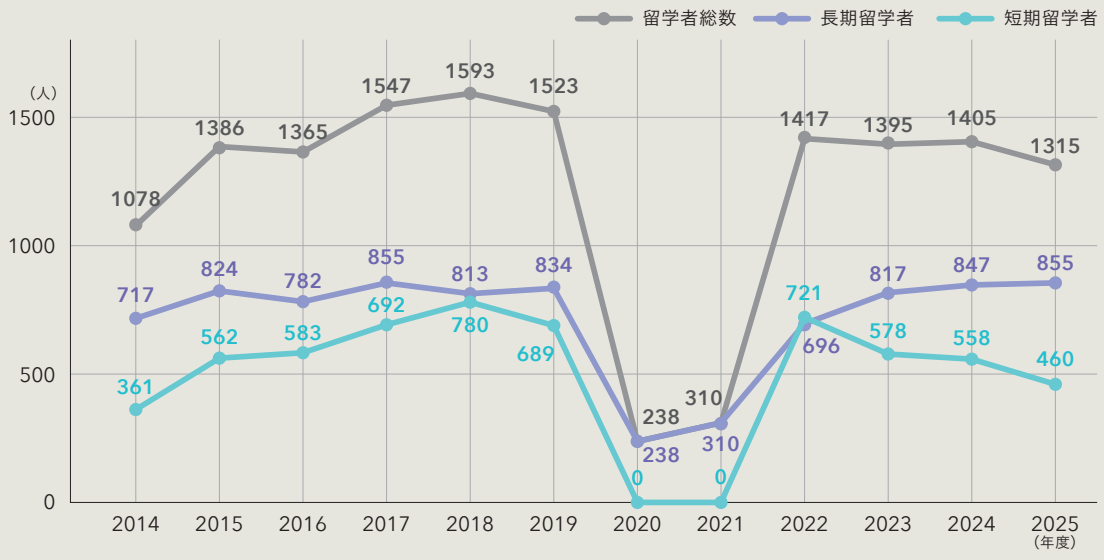
本学では海外留学は必修ではありませんが、多くの学生が毎年留学に挑戦しています。留学は語学力の向上のみならず、異文化に対する理解や感受性を養い、多文化共生社会で活躍するための力を育む貴重な機会であり、学生の大きな成長につながっています。そのため、本学では今後もより多くの学生に在学中の留学を経験してほしいと考えています。

一方で、近年の留学を取り巻く環境は厳しさを増しています。2025年度の留学経験者数は1,315名で、2024年度の1,405名から90名減少しました。内訳を見ると、長期留学者数はほぼ横ばいで推移している一方、短期留学者数は約100名減少しており、2022年度以降減少傾向が続いています。その背景には、世界的な物価上昇や円安による留学費用の高騰、各国の受入れ制限や学生ビザ申請料の値上げなどがあると考えられます。

本学では従来、短期留学で海外生活への適応力を確認したうえで長期留学へ進む学生が多く見られました。しかし近年は費用負担の増加により、短期・長期の両方を経験することが難しい学生も増えています。また、長期留学を志向する学生の中には、費用対効果の観点から短期留学への参加を見送るケースも少なくありません。

こうした状況の中、基金によるご支援により、国連スタディツアーをはじめとする短期留学に挑戦する機会を学生に提供できることは極めて重要です。短期留学は海外への第一歩として大きな役割を果たしており、その経験が将来の長期留学、既成概念・偏見にとらわれることのないしなやかな感性を有した人材の輩出、国際的な活躍へとつながります。これまでのご支援に深く感謝申し上げるとともに、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

留学者数の推移［2014〜2025年度］



※オンライン留学は含めない
※2020〜2021年度の数字は、コロナ禍の影響による

COLUMN 2

サークル活動を支える空間づくり

サークル活動の安全と安心のために

サークル棟空調整備プロジェクト



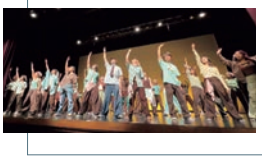
近年、地球温暖化等の影響により夏場には「災害級」とも言われる厳しい暑さが続いています。本学サークル棟（屋内運動場および課外活動施設）には、これまで空調設備が設置されていない部屋が複数あり、夏場の室内温度上昇による熱中症や体調不良のリスクの高まりが、非常に深刻な課題となっていました。

学生を対象とした「課外活動に関する満足度調査」においても空調設備の設置を求める強い要望が多数寄せられており、大学として緊急性・必要性が極めて高いと判断し、基金による本プロジェクトを実施しました。

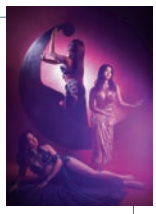
＼ 私たちの活動を支えるご支援に感謝 ／

ストリートダンス部quattro

この度は、多大なるご支援を賜り、心より御礼申し上げます。皆さまからの温かいご寄附により、練習場所に冷房設備を整備することができました。これまで、夏季の練習では暑さの中で活動することも多く、集中して練習に取り組むことが難しい場面がありました。今回、空調環境が整備されたことで、暑い時期においても快適かつ安全に練習に励むことができるようになり、部員一同、大変ありがたく感じております。このような恵まれた環境で大好きなダンスに打ち込むことができるのは、ひとえに皆さまの温かいご支援のおかげです。いただいたご厚意への感謝を胸に、一回一回の練習を大切にし、技術の向上とより良いパフォーマンスを目指して、これからも部員一同、努力してまいります。改めまして、皆さまの温かいご支援に心より感謝申し上げます。



ベリーダンス部



サークル棟空調整備プロジェクトに携わってくださった皆さま、心より御礼申し上げます。ベリーダンス部が活動する3階舞踊場はこれまで空調がなく、夏場は酷暑の中で熱中症のリスクと隣り合わせの状況でした。しかし、2026年8月に皆さまの温かいご寄附により空調が設置され、安全で快適な環境の下、練習に集中し、パフォーマンス向上に励むことができました。皆さまからいただいた大切な空調設備を、今後も部員一同で大切に使用してまいります。誠にありがとうございました。

アカペラサークルLINES



こんにちは！東京外国語大学アカペラサークルLINESです。この度はサークル棟空調設備プロジェクトへのご寄附をいただき、誠にありがとうございました。これまでは厳しい暑さの中での練習をしておりましたが、冷房が導入されたことで約100名の部員が安全かつ快適に練習へ励めるようになりました。皆さまのご支援のおかげで、年2回のライブや外語祭などのイベントに向け、より一層熱を入れて活動できております。心より感謝申し上げます。これからも素敵な歌声を届けてまいります！

美術部

ついにサークル棟に空調設備が付きました。昨今の物価高騰など厳しい状況の中で空調整備が完了したのは、ひとえに皆さまからのご支援と大学関係者の方々のご尽力があってのことです。心より感謝申し上げます。空調が整備され、夏の茹だるような暑さに悩まされなくなり、制作環境も外気温に左右されにくくなりました。快適になったことは非常に喜ばしいことですが、それだけのことに留めず、創作のさらなる充実と拡大の機会と捉えて、今後の活動に邁進してまいります。



管弦楽団



この度は、空調設備の設置にご協力いただき、誠にありがとうございました。空調設備が整備されて以来、暑い日でも快適に練習することができるようになり、団員一同大変嬉しく思っております。これまで夏の練習では、猛暑のために思うように練習ができない日も少なくありませんでした。しかし、今回空調設備を整えていただいたことで、より快適な環境で練習に取り組むことができるようになりました。今後は、空調設備の整ったサークル棟でより一層練習に励み、より良い演奏を皆さまにお届けできるよう努めてまいります。改めまして、空調設備の設置にお力添えいただき、心より御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

ラクビー部

サークル棟の空調整備にご支援をいただいた皆さまに、心より感謝申し上げます。皆さまのご支援のおかげで、過酷な練習後のウエイトトレーニングにおいて熱中症や怪我のリスクを低減させるとともに、トレーニングの質を高め、高い集中力を維持することが出来ています。伝統ある外語大ラグビー部として、多文化の多様性を認め合いプレーできるラグビーの価値を地域や社会へ発信・還元していくことが私たちの使命です。社会貢献の志を胸に邁進し、勝利という結果で皆さまの想いに必ず報います。今後とも温かいご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。



次世代を担う多様な人材の学びと未来を支えるために

修学支援事業基金へのご寄附のご案内

1 設立の背景

東京外国語大学では、豊かな言語能力と地球社会についての深い洞察力を備えた人材を育成するため、日々質の高い教育・研究活動に取り組んでおります。

しかしながら、近年の社会経済情勢の変動や物価高騰等に伴い、経済的な困難を抱える学生や、個別の配慮・支援を必要とする学生が増加しているのも事実です。意欲と優れた能力を持ちながらも、経済的理由等により修学の継続や留学が危ぶまれる事態は、学生本人にとっての不幸にとどまらず、将来の社会にとっても大きな損失です。

本学が受入れるべきは、出身や環境を問わず高い志を持つすべての若者です。誰もが安心して学業に専念できる開かれたキャンパスを実現し、未来へ羽ばたく学生たちを社会全体で支えるため、「修学支援事業基金」への温かいご支援をお願いいたします。

2 寄附金の使途（ご寄附が届ける具体的支援）

お寄せいただきましたご寄附は、多角的な支援事業へと充当されます。

1. 経済的理由により修学が困難な学生への支援

- 学費・寄宿料の軽減：授業料・入学料・寄宿料の免除を行い、経済負担を軽減します。
- 学資の給付・貸与：安心して学業を続けられるよう、奨学資金の給付や貸与を行います。
- 海外留学の機会保障：教育研究上必要な海外留学に係る費用を負担し、グローバルな学びを後押しします。
- 学内雇用の促進：教育研究業務への雇用（TA・RA等）を通じ、生活支援と同時に学生自身の資質向上を図ります。
- 国際交流寄宿舎の整備：外国人留学生と日本人学生が共に暮らす寄宿舎の施設整備費や民間賃貸住宅の借上賃料の一部を補助し、寄宿料の減額を実現します。

2. 障害があることにより修学が困難な学生への支援

- 合理的配慮の提供：個々の障害の状態に応じた教育環境の整備、学習支援体制の構築、補助教材の確保等に必要な費用として活用します。

3 世界の架け橋となる若者のために



本学では、2026年度冬学期からショートビジットプログラムへ参加する学生に対し本基金を活用した支援を実施することを決定しました。世界をつなぐ架け橋となる若者の学びの灯を絶やさないために、皆さまからのご支援が不可欠です。本基金へのご協力は、一人の学生の夢を叶えるだけでなく、多様性に満ちた持続可能な未来社会への支援でもあります。

皆さまのご理解と厚いご支援・ご協力を、心よりお願い申し上げます。

2025年度にご寄附いただいた方々

※お名前の公表をご了承いただいた方のみ掲載しております（敬称略）。

個人

青山　亨
秋山　正彦
阿出川　範子
穴田　清和
安藤　修一
池上　岳彦
伊藤　勝郎
伊藤　生子
伊藤　高城
井上　実佳
井ノ内　紀子
稲生　秀俊
内田　美那
内海　香織
梅沢　朗子
梅澤　忠男
楳田　満蔵
浦田　和幸
大北　智花
大澤　はるみ
大野　政志
大原　宏
風見　健史
加藤　千晶
加藤　青延
加納　永清
河内　研一
菅野　典子
国井　利扶
久野　徹
栗原　秀明
桑野　孝也
斎藤　一夫
佐久間　隆弥
作村　直人
佐々木　宏夫
佐藤　秀夫
佐内　誠吾
沢崎　一郎
澤登　邦明
澤登　頼子
島田　志津夫
末益　公一
杉山　廣志
須崎　彰子
鈴木　節夫
鈴木　理夏
清宮　衛
関　康年
高野　恭子
高橋　勝彦
高橋ジュイモ　歩
舘　次郎
店田　廣文
津吉　沙織里
寺田　朗子
土居　守
内藤　徹雄
中澤　直子
中島　洋一
中西　啓介
並木　真理子
奈良坂　純
成田　礼佳
新美　陽子
西田　良子
西村　昇
沼野　恭子
野口　利明
服部　貴志江
服部　さち
林　直柔
林　良昭
菱沼　伸善
堀川　耕司
堀本　克己
本間　芳光
前田　理絵
升水　毅
松田　正美
松田　安隆
松山　孝一
水谷　陣也、あゆみ
三井　修
南　富美子
宮崎　和貴
明治　洋征
森　開
矢田　理世
柳澤　享
柳田　茂紀
山口　登之
山崎　孝
横山　正樹
吉原　祥子
和田　雄二
渡邊　玲子

会社、法人、団体

一般社団法人　東京外語会
現代アフリカ地域研究センター学生有志
東京外国語大学学生後援会
東日本電信電話株式会社
四ツ谷エナジー合同会社



2026

支援事業計画

2026年度に予定されている支援事業計画について、次のとおり報告いたします。

区分		主な使途	金額（円）
Ⅰ	一般基金（教育支援）	・学生への奨学金支給 ・国際シンポジウムへの大学院生派遣旅費 ・寄附講座講師謝金	73,520,801
Ⅰ	一般基金 （社会貢献・学生課外活動支援）	・サークル棟空調設備工事 ・課外活動支援 ・外語祭、語劇支援 ・学生相談室の充実 ・就職指導の充実 ・海外インターンシップ学生派遣支援	
Ⅰ	一般基金（その他）	・東京外国語大学基金各種運営費	
Ⅱ	修学支援事業基金	・短期留学（ショートビジットプログラム）支援	7,000,000
Ⅳ	特定基金	・人工芝定期メンテナンス ・ウッドチップ舗装 ・学生用図書購入、図書館学生向けイベント開催 ・アフリカからの留学生招致 ・ベトナム人留学生への奨学金、ベトナム関連の学生ボランティア活動の支援 ・ペルシア語関連文書の整理、ペルシア語イベント開催 ・ロシア語専攻紀要編集作業支援	6,786,834
合計			**87,307,635**

想いを、次の世代へ―― 遺贈について

将来のご自身の遺産を、本学のために役立ててほしいというお申し出をいただくことが増えています。遺贈を希望される方には、大学が提携銀行をご紹介し、相続財産目録の作成から遺産分割手続きの実施まで、煩雑な手続きを銀行が代行いたします。みなさまの想いは大切にお預かりし、次の世代へ、未来のキャンパスへと、確実につなぎます。

遺産によるご寄附（種類）

遺言によるご寄附（遺贈）

遺贈を希望される方に対して、提携銀行のご紹介をいたします。相続財産目録の作成から遺産分割手続きの実施まで、煩雑な相続手続きを銀行が代行します。

※大学に寄附（遺贈）いただいた財産は相続税の課税対象にはなりません。

相続財産によるご寄附（遺産）

故人の遺志、ご遺族の意思により、相続された財産の一部を東京外国語大学へ寄附することができます。

※相続税申告期間内にご寄附いただければ、大学に寄附いただいた財産について相続税はかかりません。本学が発行する領収証書を申告の際に税務署に提出されることで相続税は免除されます。

香典からのご寄附

故人の遺志、ご遺族の意思により、お香典を東京外国語大学基金へ寄附することができます。ご要望により、本学において、会葬者の方々へのお礼状を作成し、ご遺族の代表の方に送付させていただきます。お香典返しとしてご利用ください。

大学に遺贈いただいた遺産は相続税の課税対象になりません。
遺言によるご寄附をお考えの方は、事前に本学までお問い合わせください。

https://tufs-fund.jp/how-to-donate/
東京外国語大学基金HP ＞ ご寄附の方法 ＞ 遺産によるご寄附

東京外国語大学基金

あなたの支援が、TUFSを未来につなぐ

――世界と日本、東京外国語大学の未来のために――

東京外国語大学基金では、大きく4つの支援をお願いしております。

4つの支援

本学が諸活動を行う上で、みなさまからのご寄附は欠かせないものとなっております。
本学の未来のために、ご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

Ⅰ 一般基金 | 大学の活動を支援する（使途を指定しない）

所得控除

寄附者からの使途を特定されていない寄附金として受入れ、本学の諸活動を支援するため、教育支援、研究支援、社会貢献・学生課外活動支援の3点の支援に重心を置き、寄附者の方々のご厚意を反映させていただきます。

支援事業

- 国際教育支援
- TUFS多文化共生学生自主企画事業助成
- 若手研究者等の海外研究活動
- 優れた外国人研究者の招聘
- 研究成果の出版活動等助成
- 世界諸地域に関する情報発信
- 国際的なボランティア活動支援
- 課外活動支援

Ⅱ 修学支援事業基金 | 学生の修学を支援する

税額控除
または
所得控除

経済的理由により修学が困難な学生（日本人学生及び外国人留学生）を支援します。

支援事業

- 海外留学の支援
- 留学生の受入れ支援
- 給付型奨学金

Ⅲ 研究等支援事業基金 | 学生等の研究を支援する

税額控除
または
所得控除

学生（大学院生・学部生）やポスドク等の“若手研究者”へ研究を支援します。

支援事業

- 公募型プロジェクトにおいて、研究活動に要する費用を負担する事業
- 研究活動の成果を発表するために必要なものを負担する事業
- 異分野の研究者との交流その他の他の研究者又は実務経験を有する者との交流を促進する事業

Ⅳ 特定基金 | 次に掲げる本学の特定のプロジェクトを支援します。

所得控除

1.人工芝基金
屋外運動場及びテニスコートにおける人工芝の敷設、更新、維持・管理等を支援します。

2.植栽基金
キャンパスの樹木の維持・管理、植え替え等を支援します。

3.附属図書館支援基金
附属図書館における図書の購入、施設・設備の整備等を支援します。

4.現代アフリカ教育研究支援基金
アフリカからの留学生や、アフリカ地域の研究等を支援します。

5.ベトナム関連教育支援基金
ベトナムからの留学生や、ベトナム地域の研究等を支援します。

6.ペルシア語教育研究支援基金
ペルシア語文化圏からの留学生や、本学のペルシア語文化圏の地域研究等を支援します。

7.ロシア語教育研究支援基金
ロシア言語文化圏の教育研究・社会貢献を支援します。

8.ドイツ語教育研究支援基金（2026年度新設）
ドイツ言語文化圏の教育研究・社会貢献を支援します。

9.端艇部支援基金
端艇部（ボート部）の活動等を支援します。

ご寄附の手続きはこちらまで

東京外国語大学基金 https://tufs-fund.jp/

東京外国語大学
Tokyo University of Foreign Studies

お問い合わせ先

東京外国語大学 総務企画課 基金担当
〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1

TEL：042-330-5126
FAX：042-330-5599
Email：tufs-fund@tufs.ac.jp

https://tufs-fund.jp

2026年10月発行